

---

# 教えてもらった唄...

桜実保乃佳

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

教えてもらった唄…

### 【Nコード】

N0089L

### 【作者名】

桜実保乃佳

### 【あらすじ】

ある日、和葉が京都の手毬唄を歌っていた

鈴が「何の唄？」と聞き和葉は教えてあげるコトに…

(前書き)

鈴目線で話が進みます

ある日、アタシはご飯のお手伝いしとった

アタシはお皿を並べる仕事を任された

ほんで並べとった

そしたら、お母ちゃんが

「丸竹夷二押御池」

って歌い始めた

「お母ちゃん、それ何の唄？」

アタシは聞いた

お母ちゃんは

「この唄は京都で聞く歌なんよ…。」

手毬唄っていうんよ。」

笑顔で言った

「手毬唄、唄ってくれへん？」

アタシが頼むと

「ええよ。」

丸竹夷二押御池

嫁さん六角蛸錦

しあ…。」

お母ちゃんがそこまで歌ったときやった

「嫁さんやのーて姉さんや!」

「平次!」

声がして2階からお父ちゃんが鈴哉兄ちゃんと一緒に降りて来た

「嫁さんちゃうの?」

アタシが聞いた

「そうや、正しく直すと 姉三六角蛸錦 やな。」

正しく直したお父ちゃん

「へえ...。」

目を丸くした鈴哉兄ちゃん

「まあ、何でもええやんか。」

と笑いながら言うお母ちゃん

「その続き唄ってーな!」

アタシの頼みに鈴哉兄ちゃんもウンウンとうなずく

その後、お母ちゃんから初めて習った手毬唄はとめっちゃん印象に残ったんや

アタシも子どもできたときに教えてあげるんや！

そう心に誓った…。

(後書き)

平次の家族版です

次は快斗ファミリーを書こうと思います  
読んでくれて有難うございました

駄目だし遠慮なくお願いします

N R T D

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0089/>

---

教えてもらった唄...

2010年10月14日13時20分発行